

研究会開催通知

(昭和 55 年 11 月 15 日～12 月 30 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
ソフトウェア工学	11月17日(月)	13:00～17:00	機械振興会館	前号参照
医療情報学	11月21日(金)	10:00～17:00	同上	同上
計算機システムの解析と制御	11月28日(金)	13:30～17:00	同上	同上
分散処理システム	12月9日(火)	13:30:17:30	島津製作所 大阪支社	下記参照
電子装置設計技術	12月16日(火)	14:00～17:00	機械振興会館	同上

◆ 第7回 分散処理システム研究会

(主査:元岡 達, 代表幹事:田中英彦, 村上國男)

- 日 時** 昭和 55 年 12 月 9 日 (火) 午後 1 時半～5 時半
- 会 場** 島津製作所大阪支社 第一会議室
〔大阪市北区芝田 1-1-4, 国鉄:大阪駅下車, 阪急電鉄:梅田駅下車, 阪急ターミナルビル 14 階 (梅田駅ビル)
Tel. 06 (373) 6522 (同ビル内, 14 階・島津製作所・大阪支社総務課)〕
- 議 題**
- (1) デジタル電子交換機のマルチプロセッサ制御方式
堀 好徳, 水沢純一, 小川 聡, 金 克能 (武蔵野通研)
〔概要〕 機能分担をしている実時間性の処理を行う通話路プロセッサと非実時間性の処理を行う制御プロセッサの分割方法. また各々のプロセッサでの負荷分担の方法について述べる.
 - (2) 構内パケット通信網のオフィスオートメーションへの適用
竹山 明, 八星禮剛 (富士通研究所), 山口宏二 (富士通)
〔概要〕 オフィスオートメーションにおけるテキスト, イメージ, 音声などの端末と蓄積, 処理システムの間を結ぶツールとしての構内パケット通信網について述べる.
 - (3) 分散処理におけるセンサベース概念
高橋慎治, 沢野明郎, 阪田史郎, 服部光宏 (日電・中研)
〔概要〕 センサベースの概念を分散処理環境下で展開し, センサベースプロフィールを取入れた管理方式が分散処理システムに適用できることを示す. さらに実際のアプリケーションをセンサベースプロフィールに基づいて記述し, その有効性を議論する.
 - (4) 仮想化技法に基づく公衆パケット網への端末収容について
鈴木健二, 浦野義頼, 小野欽司 (KDD)
〔概要〕 既存の各種端末をスクロール・ページモード等の端末として仮想化した際の実端末・仮想端末間のマッピング処理および仮想端末間プロトコルを

報告する。

(5) DCNA のファイル管理プロトコル

宮澤正幸, 加藤保夫, 森崎正人, 島崎勝美 (横須賀通研)
平野茂樹 (日電), 土屋和雄 (日立), 小林一夫 (富士通),
川村克彦 (沖電気)

〔概要〕 ファイルの生成, 共用, 機密保護のファイル管理の機能をデータ通信網上で実現するための基本概念とプロトコル規定内容について述べる。

(6) DCNA データベースアクセスプロトコル

河津誠一, 柴崎泰三, 大沼幸平 (横須賀通研)
阿折義三 (日電), 鈴木康文 (日立), 三浦寿男 (富士通),
吉田 勇 (沖電気)

〔概要〕 DCNA データベースアクセスプロトコルはネットワークにおける利用者に対して, 既存データベースとの親和性の高い共通のデータベースモデルとこのモデルに対する高水準のアクセス機能 (操作, 制御等) を提供するプロトコルである。

◆ 第7回 電子装置設計技術研究会

(主査: 加納 弘, 代表幹事: 伊藤 誠, 上田 勤)

日 時 昭和 55 年 12 月 16 日 (火) 午後 2 時 ~ 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 都営 6 号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷一東京タワー線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) LSI パターン設計システムにおける自動配線経路決定の一手法

井戸幸彦, 石井 真, 小山正弘, 三木克之, 井上隆秀 (ソニー)

〔概要〕 任意形状に設定された配線チャンネルに多端子ネットを疑似経路長最短で割りあてるグローバル・ルータについて報告する。

(2) LSI 設計自動化システム

杉山 吉, 須藤常太, 唐津 修 (武蔵野通研)

〔概要〕 階尺, 仕様言語 HSL を中心に構築され, 稼動を始めた VLSI 設計システムの概要を述べる。

(3) LSI マスクアートワーク解析システムとその応用

千葉俊明, 三橋 隆, 高島 誠, 吉田憲司 (東芝)

〔概要〕 LSI レイアウト設計のマスクアートワーク解析システムとそれに関連する検証プログラムについて述べる。

(4) DDL によるコンピュータの設計と検証

川戸信明, 齊藤隆夫, 丸山文宏, 上原貴夫 (富士通研究所)

〔概要〕 DDL (Digital System Design Language) を用いたコンピュータの機能設計とその検証について述べる。

◆ ソフトウェア工学研究会

本年度最後の研究会を下記の要領で開催致します。発表希望の方は12月5日までに学会事務局研究会担当までお申込み下さい。

期 日 昭和56年2月12日(木)～13日(金) (2日目の午後はパネル討論の予定です。)

場 所 九州大学・工学部

主 題 「ソフトウェア開発環境とその評価」

プログラムおよびソフトウェアシステムの開発環境とそこにおけるツール類に関し、その考え方、実際の例、使用経験、それらの評価などを中心として議論する。

* なお、内容についてのお問合せは

〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学工学部情報工学科 牛島 和夫

Tel. 092(641)1101 (ex. 5413)

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

来年2月18日(水) 広島大学において、電子通信学会電子計算機研究会と共催で、例年通り研究会を開催します。講演希望の方は12月5日までに事務局研究会係までお申込下さい。

(なお、締切日以降のお申込の場合には、会告に掲載はできませんが12月15日まで受付ます。)

第8回世界コンピュータ会議の論文集について

第8回世界コンピュータ会議に参加し、論文集を引換えなかった方、あるいは参加できなかったが論文集の欲しい方は下記に準じてください。

(1) 登録済の方

Congress Proceedings Voucher (青色)をもって、本学会事務局へおいでください。現物と交換します。

遠方の方は、voucher に送料 1,000円を添え、書留にてご請求ください。

(2) 一般の購読希望の方

最寄りの洋書店に注文するか、または学会にお申し出ください。クロスカバーの場合、定価は33,600円(送料を含む)です。

情報処理学会第 22 回全国大会について

—概要と論文募集—

全国大会を 56 年から年 2 回春、秋に開催することになり、第 22 回全国大会は前回大会よりさらに 2 カ月早く開催します。論文発表を希望される会員は、下記要領により、早目にお申込みください。

開催期日 昭和 56 年 3 月 24 日(火)～26 日(木)

会 場 学習院大学 (東京都豊島区目白 1-5-1)

応募資格 本学会個人会員 (正会員, 学生会員) に限ります。共同発表の場合には、登壇発表者は会員でなければなりません。ただし、登壇発表は本大会中 1 人 1 回に限ります。また、発表は日本語または英語で行うものとします。なお、55 年度会費未納の会員は、登壇発表ができません。

申 込 料 不要です。ただし、登壇発表される方は、論文集原稿を提出する際に、必ず参加費を納入してください。

申込方法 添付の講演申込用紙(1 件 1 枚)に必要事項を記入し、宛先明記の原稿用紙送付用封筒 (大きさ A 4 判…21 cm×30 cm のもの。切手は不要) を同封のうえ、**55 年 11 月 25 日(火)**までに(必着)、下記申込先へお送りください。

論文提出 所定の原稿用紙を 12 月下旬に送付しますので、昭和 56 年 2 月 2 日(月)までにご提出ください。用語は日本語または英語に限ります。

そ の 他 詳細については、決定次第本欄にてお知らせします。

申 込 先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 308-3 号室
(社)情報処理学会 第 22 回全国大会係 電話 03(431)2808

講演内容

1. 基 礎

(計算理論, アルゴリズム, プログラム理論, その他)

2. アーキテクチャおよびハードウェア

(システムアーキテクチャ, 演算装置, 記憶装置, 入出力装置, 端末装置, 性能評価, 信頼性, 保守技術, マイクロプログラミング, その他)

3. ソフトウェア

(オペレーティングシステム, プログラミング言語, 言語処理, 性能評価, 信頼性, ソフトウェア工学, その他)

4. データベース

(データベースマシン, データマネジメント, 分散データベース, 性能評価, 情報検索, そ

の他)

5. コンピュータネットワークおよび分散処理

6. パタン処理および人工知能

(文字・図形・音声・自然言語の処理, ロボット, その他)

7. 数値計算

8. マイクロコンピュータ

9. 日本語処理

10. オフィスシステム

11. 技術, 産業, 経営への応用

(CAD, CAM, グラフィックス, ビジネスシステム, その他)

12. 社会システムへの応用

(医療, 教育, 交通, 社会モデル, その他)

13. その他

情報処理学会第 22 回全国大会講演申込用紙

題 目 ^(注1)	
ふりがな 氏 名(所属) ^(注1)	申込者が複数の場合には左から右の順に記入し講演する方に○をつけて下さい。
講演者会員番号	
原稿用紙送付先	(所在地) 〒 (氏 名) <div style="text-align: right;">Tel.</div>
(注2) 該当項目	講 演 内 容 (概要 300 字程度)
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
6.	
7.	
8.	
9.	
10.	
11.	
12.	
13.	

(注1) 学会誌発表および論文集掲載の「プログラム」は本欄記入事項により作成しますので、題目、氏名はみだりに変更しないで下さい。

(注2) 申込要領を参照し○をつけて下さい。該当項目が複数にわたる場合は、最も適合するもの1つに◎をつけて下さい。